

いたため、学生時代は長い休みになると建築現場でアルバイトをしていました。汗を流しながらものづくりに携わるのが楽しく、将来は自分も大工になる夢を描いていましたが、父親の考えもあり、同じ建設業界でも企業に勤める道を探すことになりました。

そうして大林道路に入社し、最初に配属された大阪試験所（現西日本試験室）では5年間、アスファルト合材の配合設計や品質管理などを担当しました。入社時から現場勤務を希望していましたが、試験所で3年目を迎えたころから「もう現場勤務は無理かな」と、諦めつつありました。

大林道路 取締役専務執行役員

宮原道浩氏

自他共栄の精神を忘れずに

そこで、大林道路に入社し、最初に配属された大阪試験所（現西日本試験室）では5年間、アスファルト合材の配合設計や品質管理などを担当しました。入社時から現場勤務を希望していましたが、試験所で3年目を迎えたころから「もう現場勤務は無理かな」と、躊躇めつつありました。

大林道路 取締役専務執行役員

工事における試験担当と
いう役割で現場へ異動す
ることになりました。

現場に出ると、実際の
担当は施工管理でした。

現場では、私より早く配
属されていた後輩たちが
業務をテキパキとこなす
姿に圧倒され、悔しさと
焦りを感じたのです。

ところが、この工事は地
元の反対で一時中断とな

装工事など多くの工種を経験しました。月末には契約外工事の取りまとめを任せられ、これが追加・変更工事費を交渉するための基礎資料になることを学び、後々の現場運営に大変役立ちました。工期も残すところあと1カ月となり、忙しくて一人で昼食を遅れて取つていた時のことです。所

新入社員研修の現場で (前列左から4人目)



ね、発注者や会社から信頼を得ることで、次に大型工事というチャンスが得られるものです。忙しく、厳しくもありますが、その中に楽しみとやりがいを見つけ、それぞれの立場で目標を持ってほしい。そして、仲間と成長し合う「自他共栄」の精神を忘れずにいてほしいと思います。失敗しても悩んでもいい。そこで踏ん張った経験は、必ず将来の糧になります。一人の挑戦が、未来を支える力になります。

長が「しんどいんか? 頑張ってくれや、もう少しやないか」と声を掛けてくれました。その一言が胸に染み、「人に見てもら正在と感じただけで頑張れる」と実感しました。それ以来、私はどんな立場になつても、現場で一人一人に声を掛けよう心掛けてきました。われわれの仕事は、まづ小規模工事で実績を重

（みやびら・みやひで）
1982年鹿児島県立薩南工業高校土木科卒、大林道路入社。大阪支店大
阪北営業所長、本店工務部副部長、執行役員本店工務部長、常務執行役員
東北支店長などを経て、2025年4月から現職。鹿児島県出身、61歳。

ひと \times 文差点

